私の農業

岱明支部　　倉田　圭悟

私は就農して今年で１０年目になります。現在、私の家はたばこを２.２ｈａ、米を５ｈａ、妻と妻の両親と私の４人で作っています。私は今から約１０年前に妻と結婚して、妻の実家の婿養子になったのが就農のきっかけです。

私は高校卒業後に福祉関係の専門学校に進学して、卒業後に福祉施設に就職しました。実家は農家ではないし、私の周りにも農業関係の仕事をしている人もいませんでした。就職して約１０年が経ち、私の友人も結婚している人が増えてきたと感じた時に妻と出会い、付き合うことになり、そして妻の実家に挨拶に行ったときに妻の両親から「いっしょに農業をやらないか」という一言で、私が３４歳の時に妻との結婚を機にそれまで勤務していた福祉の仕事を退職して、就農しました。

しかし私は農家としての知識や経験が全くなく、妻の両親の指示通りに仕事をするのが精いっぱいでした。また今までやっていた仕事とは違い、屋外でしかも真夏の炎天下の中での農作業は就農してすぐの私にはとてもハードでした。当時の私は玄米３０ｋｇの紙袋を抱えるのにも苦労しました。

福祉の仕事をしていた時は定期的な休日がありました。農業は特に繁忙期に休むなんてまず無理です。そんな実際に農業をやってみてこんなにきついなら担い手不足になるのも分かるような気がしました。

実際に私が住んでいる岱明町には就農した当初はたばこ農家が 3 件ほどありましたが、いまとなっては我が家だけです。３０代で就農した私が夕方の農作業が終わるころには疲れ果てているのに、周りの５０代～８０代の農家の方々はそんなに疲れているようには感じませんでした。やはり何十年と農作業をやり続けていることで、年齢は還暦を過ぎているのに私とは体力が全然違うことに驚きました。

ある日、たばこの収穫をしていると腕や膝のあたりが痛痒くなってきて、その日の夜はほとんど眠れませんでした。翌日、皮膚科に行ったら「たばこの葉によるアレルギー性皮膚炎」と診断されました。これからたばこの葉を栽培していくと決心した私

にとっては何とも言えない診断結果でした。毎年、芽カキや収穫の時期にこんなつらい目に遭うと思うとこの先不安しかありませんでしたが、実際にたばこ農家には結構いるという話を聞き、対処の仕方を教えていただきました。体温が上がると痒くなる為、繁忙期は体力的にきついのに湯船に浸かれなかったり、お酒を飲めないなど、違う苦しさはありますが、なんとか仕事を続ける事が出来ています。

きついだけの農作業でしたが、就農したその年に生まれて初めて、自分で種まきから田植えなどを行い、我が家で収穫した米を初めて食べたら、とてもおいしかったです。就農するまではスーパーで売られている米しか食べたことがなかった私にとっては、自然の中で、自分たちで肥料をやって日々手入れをして時間をかけて育てて収穫した米の味は格別でした。

就農してしばらくしてから同じ岱明町で農業をしている先輩に「同じ地域で農業やっているのだから、青壮年部に入らない？」と誘われて JA たまな青壮年部岱明支部に入りました。同年代の農業者の知り合いが少ない私にとっては、ありがたい話でした。また婿養子として岱明町に住むこととなった私を温かく受け入れてもらい、他の皆さんとは栽培している作物は違ったりもしましたが、いろいろな話を聞いてとてもいい勉強になりました。

同じ岱明支部の盟友の中には私と同年代や年下でも農業者としては私よりも経験を積んでいる人もいて、みんな仕事に対して前向きで熱心でとても刺激を受けました。早くみんなに追いつきたいと思いました。

就農して 7 年が経ち、たばこの栽培を全て自分たち夫婦主体でさせてもらえるようになりました。今まで義父主体でやってきたことが自分に主体になることで、自分の考えたとおりに仕事の段取りを行い、思い通りにできる面もあるのですが、全ての責任を自分たちで背負わなければならなくなるというプレッシャーも感じました。

たばこは他の農作物と違い、その年の作付け前に価格が決定して、全量出荷を行う契約栽培なので、その年の天候や生産量によって価格が左右されることはないのが特長です。しかし他の作物と同じで、自然が相手です。病害虫等による被害には細心の注意が必要です。ある盟友との会話の中で「病気や害虫が出てから対応するか、出る

前に対応しているかでかなり違う」という話を聞きました。出る前に対応することで被害は少なくなるということは当たり前だとは思うのですが、一見、簡単なようで奥が深いと思いました。

それは幾度かの失敗や成功をくりかえして長年の経験で培えることだし、人に教えるということは自分がそのことに対して完全に理解していないとできないことだと思います。たばこの栽培を任されたとはいえ妻の両親からしたら私はまだ経験不足です。自分が正しいと思ってやっていることでも、間違ったことをしているように感じることもあるみたいで食い違うことがありました。義父からしたら今まで自分が培ってきた経験があってのことではあるのでしょうが、私からすれば「なぜ今までそれをせずにやって来れたのか？」と思うことがあります。

義父と農作業をしていて初めの方は私も全てにおいて分からないので、仕事をしながら教えてもらったりして覚えていったところもあるのですが、しばらく一緒にやっていると、私なりの考えではありますが、違うやり方をしたほうがいいのではないかとか、これは絶対にやっておいた方がいいとか、義父のやり方に少しずつ疑問を抱くようになりました。

直接義父に「これはやっておいた方がいいと思う」ということを伝えたら「そがんこつはせんでよか」と言われました。経験と実績では私は足元にも及ばないので、そういうふうに言われるのは少し覚悟していました。

そのことを先輩農家に話をしたところ「なんかそれって農業者として成長している証拠なんじゃないの？意見と通すのは難しいかもしれないけど、自分自身でそう感じるなら１人の時にやるとかでいいんじゃない」と言われました。実際にたばこの栽培管理を任されるようになったとはいえ、自分の意見が通ることはあまりないです。婿養子の辛いところですが、確かに自分１人でできることなら１人でやればいい。そう思うと気持ちが楽になり、実際に私が１人の時には自分が考えている通りのことをやるようにしました。

就農して約１０年経ちますが、農業を取り巻く環境も変化しました。肥料の価格高騰や農業資材等の農業を営むうえで必要なものはほとんど値上がりし続けています。

私の今後の目標は、ズバリ「現状維持」です。

今の経営状態を維持し続けることです。自分たち家族ができることをできる範囲内で精いっぱい頑張る。そしてそれを自然環境や世の中の変化にうまく対応しで効率良くしていけるように考えながら続けていく。それで十分だと思っています。

いつも葉たばこ農家の娘として育った妻に怒られてばかりの未熟者の私ですが、家族を大切にし、多くの人と交流し、いつの日か若い人たちが「農業をやりたい」と言ってくれる日を夢見て楽しく頑張っていきたいと思います。